

“しごと観育成”研究会

2007-2008

News letter vol.1

2008年3月1日、
第2期の幕開けとなる
研究会が開催されました。

高校調査の速報、
現役高校教員の講演などを通し、
高校・専門学校・大学での
キャリア教育のあり方について、
参加者を交え、熱く議論しました。

今回のニュースレターでは
研究会当日のレポートを中心に
お届けいたします。

“しごと観育成”研究会 第1回研究会報告(1/2)



もっと議論がしたい！

(参加者アンケートより)



日時: 3月1日(土) 13時～17時
会場: ホスピタリティツーリズム専門学校大阪

1. 講演「第2期研究会スタートにあたって」 代田 昭久 氏 (13歳のハローワーク公式サイト編集長)



中学生も、10年後には社会人

「勉強をして、良い大学に入るのが良い人生」という世間の常識に違和感を感じていた頃、村上龍さんの「13歳のハローワーク」にあった「好きなことを仕事にする」という言葉を見て、これこそが**未来をつくる新しい価値観**だと感じました。しごと観研究会はそんな思いから生まれ、活動を行ってきました。

来年度、私は杉並区立和田中学校の校長になります。思いとしてあるのは、中学生でも10年後には社会人になるのだから、そのときに必要になる力をつけてあげたいということ。そのために必要なのが、**好奇心と多様な価値観**です。常識にとらわれないカリキュラムで、好奇心と多様な価値観を育む教育を実現し、好きなことを仕事にできる子どもを育てたいと思います。

2. 講演「高校生の“しごと観”と進路選択に関するアンケート調査速報」 八木 秀泰 氏 (株) 応用社会心理学研究所 調査研究プロデューサー)



興味のある職業とテーマの関連性に注目

関東、関西を中心とした16校、約6000名の高校生に実施した調査の中で注目したいのは、「**興味のある職業**」と「**興味のあるテーマ**」との**関連性**。例えば、**料理人や美容師といった職業に興味のある学生は、音楽にも関心が高いこと**、また**お笑い芸人や政治家といった職業に興味のある学生は、楽をしたり、安定を求める傾向があること**など、興味深いデータがいくつか見られました。

今回はあくまでも速報でしたが、今後はこの結果を活用し、子どもの興味と仕事を結びつけるための指標づくりに力を注ぎます。



調査結果の一部。詳細は後日！

3. ゲスト講演「大阪府立西成高校におけるキャリア教育の取り組み事例」 杉本 美範 氏 (大阪府立豊島高校 進路指導部 (昨年末まで西成高校に在籍))

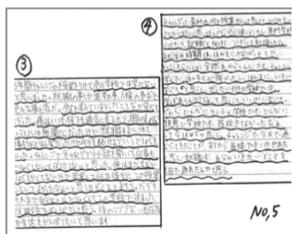


人権学習＝進路学習

西成高校では、「CHALLENGE」という総合学習を通し、生徒のキャリア教育に関わってきました。CHALLENGEの中で最も特徴的なのが、生徒や教師にとって最もしんどい時期にあたる**2年2学期に、敢えて人権学習**を取り入れていることです。西成高校には、被差別の立場にある子どもなど、様々な境遇の学生がたくさんいます。具体的な進路を考える前に、別の視点から「**自分はどういう人間なのか、どのように生きたのか**」を考えさせることで、生徒は自ら進路を発見していきます。

もう一つの特徴として、授業の最後に感想を書かせるのですが、とにかく量を書かせます。そしてそれをクラス全員で共有します。それにより、自分が何を考え、また別の生徒はどう感じたのかを知ってもらいます。

最も大事なものは、卒業してからの子がどんな生き方をするのか、ということ。**キャリア教育には確固たる「柱」が必要です**。そしてその柱は高校によって様々だと思います。西成高校ではその柱の一つが「人権」でした。高校や生徒の現実にあわせ、どのような柱をつくるか、それを教師全員で議論することが大事だと思います。



杉本先生作成の、CHALLENGE学期末テスト(左)と生徒の感想文(右)。授業を通して教師と生徒が心を通わせる様子を、参加者一同、多めに感銘を受けました。

4. 参加者によるディスカッション

キャリア教育における連携のあり方について、高校・専門学校・大学の教職員が議論をかわしました。

発言集

<高校教員>

●専門学校・大学に講演を依頼する際、学校を宣伝したいという思いが強いことに**学生とのギャップ**を感じる。授業では職業観を伝えることに力を入れてほしい●**「何をしたいかが分からないなら大学に行け**」というのはおかしい。そんな指導をしても、大学卒業時にまた同じ思いをさせるだけ●福祉の授業で保育所を訪問し、自由に学生を子どもと触れ合わせたら、学生から「自分でも役に立てるんだと実感した」という感想をもらった。ところが職業体験の授業で保育所を訪問したら、技術的な指導が多く、学生からは無味乾燥な感想しか出てこなかった。同じ職場体験でも、**目的によってその効果は全く異なる**●専門学校では入学してすぐに就職活動がはじまる。職業意識の育成を専門学校だけに任せず、**高校でも育てる**ことが必要



<専門学校教職員>

●就職が売り手市場になると離職率が大きな問題になる。**自分の適正を認識させる**ための授業がこれまで以上に重要になるのでは●専門学校生が、何となく大学の友人と一緒にいると、彼らの価値観に流され、仕事に対する意識が希薄になる。**友人の影響は結構大きい**●今は「選択と順応」にこだわりすぎている。進路決定をした学生に再度興味テストを実施するなど、**既に進路選択をした学生に対するキャリア教育**があるのでは●他者から評価される厳しさも喜びもないインターンシップは嫌い。**周囲との関わりの中で**仕事の喜びを見いだすことが重要●「成績が良い＝大学進学」という意識が未だに根強い。学生が専門学校を希望しても**親が許さない**という状況があるのでは●欧米では、職業専門学校が大学とは異なる学校として確固たる地位を築いている。そのような意識改革が必要なのは

<大学教員>

●特に中堅以下の大学は、**専門学校以上に問題意識**を持つべき。単に企業が求める人材を提供するのではなく、**社会の矛盾を発見**し、改善できる人材育成が必要●西成高校の事例は大学にとっても非常に参考になると思う

5. 学校見学

担当者様のご好意により、ホスピタリティツーリズム専門学校大阪校内を見学。飛行機内、ホテルフロント、鉄道車両など、観光産業の現場をリアルに再現した設備を前に、様々な質問が飛び交いました。

学校見学の後は会場で懇親会を実施し、引き続き議論されたあと、研究会は幕を閉じたのでした。



今回の研究会はどうでしたか? ~参加者アンケートより~

■高校での取り組みがかなりばらつきがあり、入学する学生も個人差が大きいことが分かった■今後、本校でのカリキュラムを考える際に参考にしたい■各段階での問題意識が良く分かった■西成高校での具体的な取り組みが分かり、とても参考になりました■もう少し方向性が見えてくれば・・・■もっと議論がしたい! ■発表がとても参考になりました

<次回予告>

第2回研究会は、4月下旬～5月上旬に、東京にて開催予定です。今後も参加者の皆様との議論を積極的に行なってまいります。

“しごと観育成”研究会事務局
お問い合わせ: info@npo-kgc.or.jp